

受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。
さて、「ワールド・ベスト・カンパニー（日本）（愛称 WBC日本）」は、このたび、第8期の決算を行いました。
当ファンドは、主として、わが国の金融商品取引所上場株式に投資し、投資信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第8期末(2017年4月17日)

| | |
|------------|---------|
| 基準価額 | 11,746円 |
| 純資産総額 | 68百万円 |
| 第8期 | |
| 騰落率 | 9.2% |
| 分配金(税引前)合計 | 700円 |

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、岡三アセットマネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページのファンド情報から当ファンドのファンド名称を検索することにより、運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

ワールド・ベスト・カンパニー（日本） （愛称 WBC日本）

追加型投信／国内／株式

作成対象期間：2016年4月16日～2017年4月17日

交付運用報告書

第8期(決算日2017年4月17日)

 **岡三アセットマネジメント**

〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社カスタマーサービス部へ

フリーダイヤル ☎ 0120-048-214 (営業日の9:00~17:00)

[ホームページ]

<http://www.okasan-am.jp>

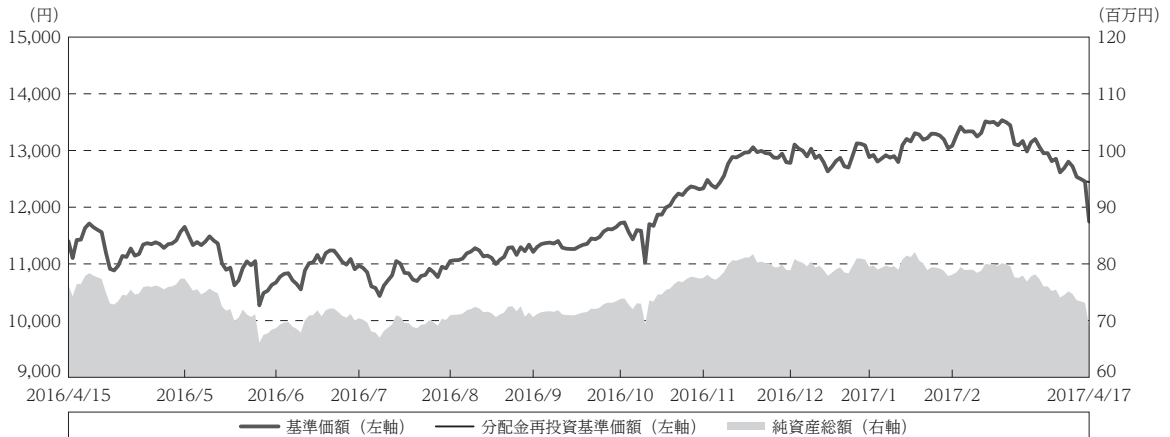
※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。
※機種により本サービスをご利用いただけない場合があります。



運用経過

期中の基準価額等の推移

(2016年4月16日～2017年4月17日)



期 首：11,400円

期 末：11,746円 (既払分配金(税引前):700円)

騰落率： 9.2% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2016年4月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・業種配分では、電気機器、機械、サービス業などが基準価額にプラスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、ディー・エヌ・エー、住友重機械工業、SUMCOなどが基準価額にプラスに寄与しました。

(主なマイナス要因)

- ・業種配分では、建設業、不動産業、銀行業などが基準価額にマイナスに寄与しました。
- ・個別銘柄では、明電舎、太陽誘電、三菱UFJフィナンシャル・グループなどが基準価額にマイナスに寄与しました。

1万口当たりの費用明細

(2016年4月16日～2017年4月17日)

| 項 目 | 当 期 | | 項 目 の 概 要 |
|-----------------------|----------|------------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信 託 報 酬 | 193 円 | 1.629 % | (a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 |
| (投 信 会 社) | (92) | (0.776) | 委託した資金の運用の対価 |
| (販 売 会 社) | (92) | (0.776) | 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| (受 託 会 社) | (9) | (0.076) | 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| (b) 売 買 委 託 手 数 料 | 80 | 0.671 | (b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 |
| (株 式) | (80) | (0.671) | 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (c) そ の 他 費 用 | 1 | 0.011 | (c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 |
| (監 査 費 用) | (1) | (0.011) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| (そ の 他) | (0) | (0.000) | その他は、金銭信託支払手数料 |
| 合 計 | 274 | 2.311 | |
| 期中の平均基準価額は、11,876円です。 | | | |

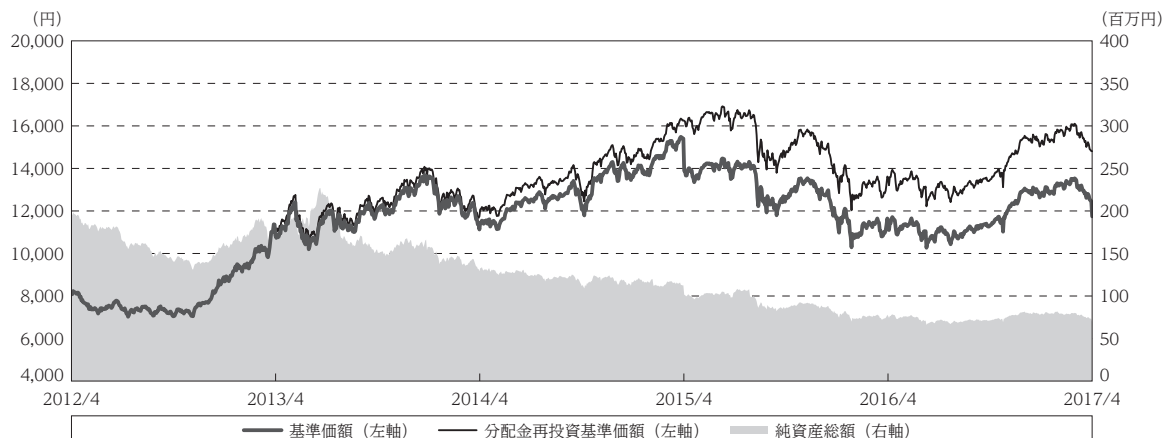
(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2012年4月16日～2017年4月17日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額は、2012年4月16日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

| | 2012年4月16日 期初 | 2013年4月15日 決算日 | 2014年4月15日 決算日 | 2015年4月15日 決算日 | 2016年4月15日 決算日 | 2017年4月17日 決算日 |
|---------------------|------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 (円) | 8,088 | 10,847 | 11,128 | 13,888 | 11,400 | 11,746 |
| 期間分配金合計(税引前) (円) | — | 300 | 300 | 1,500 | 200 | 700 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | — | 37.8 | 5.4 | 38.3 | △ 16.5 | 9.2 |
| 日経平均株価(225種)騰落率 (%) | — | 40.2 | 5.4 | 42.0 | △ 15.2 | 8.9 |
| 純資産総額 (百万円) | 196 | 175 | 129 | 101 | 76 | 68 |

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 (注) 日経平均株価(225種)は当ファンドの参考指数です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する指数として記載しているものです。詳細につきましては、最終ページをご覧ください。

投資環境

(2016年4月16日～2017年4月17日)

国内株式市場は、円高米ドル安の進行を受けて、2016年6月末にかけて軟調に推移しました。7月以降は、参議院選挙で与党陣営が勝利し、アベノミクス推進への期待が高まったことから、反発しました。11月に入ってからは、米大統領選挙でトランプ候補の優勢が明らかになると一時急落する局面が見られました。しかしその後は、米新政権の政策に対する期待を織り込む形で米国株式市場が上昇したことから、国内株式市場も上値を試す展開となりました。期末にかけては、円高米ドル安の進行や地政学的リスクの高まりなどを背景に、下落する動きとなりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2016年4月16日～2017年4月17日)

当ファンドの運用につきましては、日本の株式市場において代表的な株価指数である日経平均株価(225種)の構成銘柄の中から、収益力、財務体質、バリュエーション、株式市場の物色動向等を考慮して投資を行いました。

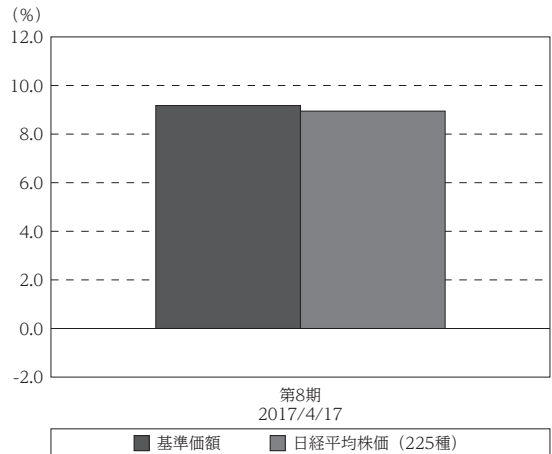
具体的には、インド市場での事業拡大が期待できるスズキなどを新規に組み入れた一方、不動産市況の先行き不透明感を背景に、業績の伸び率が鈍化すると判断した東急不動産ホールディングスなどの売却を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2016年4月16日～2017年4月17日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

基準価額と参考指数の対比 (騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金(税引前)込みです。
 (注) 参考指数は、日経平均株価(225種)です。

分配金

(2016年4月16日～2017年4月17日)

毎年4月15日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象収益として、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。

当期の収益分配につきましては、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、1万口当たり700円（税引前）とさせていただきます。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位:円、1万口当たり・税引前)

| 項 目 | 第8期 |
|-----------|---------------------------|
| | 2016年4月16日～ 2017年4月17日 |
| 当期分配金 | 700 |
| (対基準価額比率) | 5.624% |
| 当期の収益 | 177 |
| 当期の収益以外 | 522 |
| 翌期繰越分配対象額 | 2,941 |

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

国内株式市場は、世界的な景気拡大や国内企業の業績改善への期待などから、中期的に上昇する展開を想定しています。ただ、米国のトランプ政権の政策に対する先行き懸念や、欧州の政治情勢への不透明感が強まった場合は、一時的に値動きの荒い局面が見られると考えられます。

当ファンドの運用につきましては、日本を代表する企業（ベスト・カンパニー）の株式に投資します。銘柄の選定にあたっては、日本の株式市場において代表的な株価指数である日経平均株価（225種）の構成銘柄の中から、収益力、財務体質、バリュエーション、株式市場の物色動向等を勘案して投資を行います。

※文中の投資行動は、個別銘柄の売買等いかなる投資行動も推奨するものではありません。

お知らせ

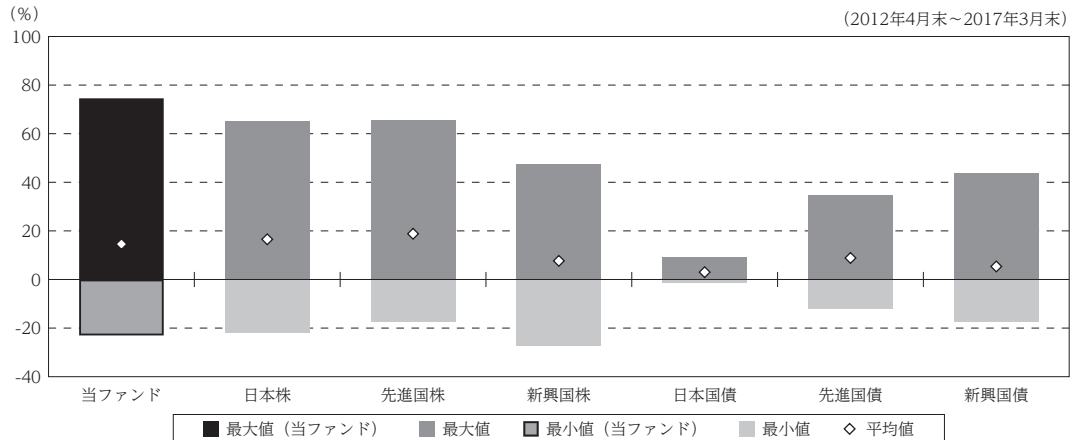
該当事項はございません。

当ファンドの概要

| | |
|--------|---|
| 商品分類 | 追加型投信／国内／株式 |
| 信託期間 | 2009年4月30日から2019年4月15日までです。 |
| 運用方針 | 主として、わが国の金融商品取引所上場株式に投資し、投資信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。 |
| 主要投資対象 | わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。 |
| 運用方法 | <p>日本を代表する企業（ベスト・カンパニー）の株式に投資します。</p> <p>銘柄の選定にあたっては、日本の株式市場において代表的な株価指数である日経平均株価（225種）の構成銘柄の中から、収益力、財務体質、バリュエーション、株式市場の物色動向等を勘案した上で行います。</p> <p>ポートフォリオの構築にあたっては、組入銘柄数を20～30銘柄程度とします。</p> <p>株式の実質組入比率は、原則として投資信託財産の純資産総額の30%以上100%以下の範囲内で弾力的に変更し、投資環境や市況動向に柔軟に対応した運用を行います。なお、株価指数先物取引を利用する場合は、株式の実質組入比率の引き下げ（売建て）に限定します。</p> <p>有価証券の組入比率は、投資信託財産総額の50%超とします。また、株式以外の資産への投資割合は、原則として投資信託財産総額の75%以下とします。</p> |
| 分配方針 | <p>毎年4月15日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき収益分配を行います。</p> <p>分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案のうえ決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、分配を行わないことがあります。</p> |

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 最大値 | 74.6 | 65.0 | 65.7 | 47.4 | 9.3 | 34.9 | 43.7 |
| 最小値 | △ 23.0 | △ 22.0 | △ 17.5 | △ 27.4 | △ 1.3 | △ 12.3 | △ 17.4 |
| 平均値 | 14.6 | 16.5 | 18.8 | 7.7 | 3.0 | 8.9 | 5.4 |

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2012年4月から2017年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2017年4月17日現在)

○組入上位10銘柄

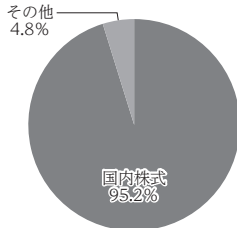
| | 銘柄名 | 業種 / 種別等 | 通貨 | 国(地域) | 比率 |
|----|------------|----------|------|-------|-----|
| | | | | | % |
| 1 | スズキ | 輸送用機器 | 円 | 日本 | 5.8 |
| 2 | ソフトバンクグループ | 情報・通信業 | 円 | 日本 | 5.5 |
| 3 | 明電舎 | 電気機器 | 円 | 日本 | 5.4 |
| 4 | 安川電機 | 電気機器 | 円 | 日本 | 5.2 |
| 5 | ミネベアミツミ | 電気機器 | 円 | 日本 | 5.1 |
| 6 | 古河電気工業 | 非鉄金属 | 円 | 日本 | 4.8 |
| 7 | ダイキン工業 | 機械 | 円 | 日本 | 4.5 |
| 8 | フジクラ | 非鉄金属 | 円 | 日本 | 4.4 |
| 9 | 宝ホールディングス | 食料品 | 円 | 日本 | 4.2 |
| 10 | 住友重機械工業 | 機械 | 円 | 日本 | 4.2 |
| | 組入銘柄数 | | 27銘柄 | | |

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

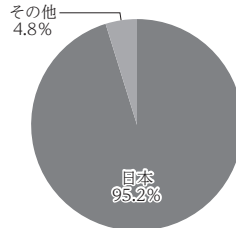
(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国を表示しております。

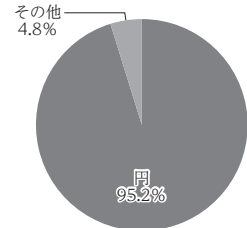
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

純資産等

| 項目 | 第8期末 |
|------------|-------------|
| | 2017年4月17日 |
| 純資産総額 | 68,965,048円 |
| 受益権総口数 | 58,714,143口 |
| 1万円当たり基準価額 | 11,746円 |

(注) 期中における追加設定元本額は111,248円、同解約元本額は8,313,112円です。

＜当ファンドの参考指数の著作権等について＞

「日経平均株価」は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」自体および「日経平均株価」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。

「日経」および「日経平均株価」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て株式会社日本経済新聞社に帰属しています。

ファンドは、投資信託委託会社などの責任のもとで運用されるものであり、株式会社日本経済新聞社は、その運用およびファンドの受益権の取引に関して、一切責任を負いません。

株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延または中断に関して、責任を負いません。

株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」の構成銘柄、計算方法、その他「日経平均株価」の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA - BPI 国債

NOMURA - BPI 国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。